

日本の伝統・精神の次世代への継承



# 日本を護る会 レポート

令和 2 年 9 月  
第 39 号

## 理事長挨拶：

日本を護る会レポート 39 号をお届けします。本年はコロナ禍により 2 月から 6 月迄の間、活動ができず、漸く 7 月から活動を再開しましたために、7 月及び 8 月の 2 ヶ月間で 3 回の定例会及び 9 月には年に一度の定時総会及び講演会を行う、とのハード・スケジュールとなりました。その結果、レポート 39 号はいつもより中身が多く、12 ページ構成となっております。

以下に第 85 回、第 87 回、第 86 回の定例会、第 12 回定時総会及び講演会の概要をお知らせします。

お蔭様で当会の活動も着実に充実しつつあり、会勢も少しずつ拡張しておりますので、今後も引き続き会員の皆様の御支援と御協力をお願い致しますと共に会員の皆様の益々の御健勝と御発展をお祈り申し上げます。

理事長 大橋 武郎

## 第85回定例会

演題「我々は如何に米国に洗脳されたか？」—国際歴史論戦の最前線からの報告—

講師：大阪市立大学名誉教授・経済学博士 国際歴史論戦研究所 (IRICH) 所長

山下 英次 氏

令和2年7月20日(月) 18:30～ 於：カフェ・ジュリエ



### 講師略歴

1947年東京生まれ、1970年慶應義塾大学経済学部卒業。

旧東京銀行に入行し調査部、国際投資部、海外部などに勤務後、

1988年大阪市立大学に移籍。同大学大学院経済学研究科教授を

経て、現在、国際通貨研究所 (IIMA) 客員研究員。アパ日本再興財団の

懸賞論文「真の近現代史観」で5回入賞 (2014、2015、2016、2018、2019年)

### 著書

『国際通貨システムの体制転換』(東洋経済新報社、2010年)、『ヨーロッパ通貨統合—その成り立ちとアジアへのレッスン』(勁草書房、2002年) など

## はじめに

今年は、戦後 75 周年、というよりは、「GHQ の洗脳開始から 75 年間 !!」

；明治維新(1868年)～日清・日露戦争～第1次世界大戦～第2次世界大戦の終了(1945年)=77年間

；終戦から 3 四半世紀を経ても、なお、歴とした独立国になれない日本

➡ 独立の志士である福沢諭吉が令和の日本を見たら何と嘆くであろうか？

論吉「一身独立して一国独立する」(『学問のすゝめ』三編)

## 1 国際歴史論戦研究所 (iRICH) の設立趣旨

\*前身=慰安婦の真実国民運動 (ATCW) 国際委員会、2018年5月発足 → iRICH の設立=2018年11月  
;単なる運動団体ではなく、アカデミックなバックグラウンドを持って主張するシンクタンク  
=あくまでも事実と論理をベースとする。

iRICH の活動目標

### (1) 対国連活動

意見書提出、各種スピーチ、パラレル・イベント (シンポジウムなど) の開催など

### (2) GHQ 史観を根底から覆すような主張を、国際学会、国際機関などで積極的に行う。

究極的には、世界史を日本人の視点から書き換えるところまで行くべし

### (3) 日本を貶めるような海外からの批判に反論「不当な日本批判を正す学者の会」(AACGCJ) との連携

## 2 NY の Libertarian Scholars Conference 2019 におけるプレゼンテーションの内容

「GHQ が戦後日本に仕掛けた巨大な洗脳の檻—小野田寛郎さんを除いてすべての日本人が洗脳された!!」

・GHQ は、WGIP と徹底した検閲によって、日本列島全体を「洗脳の檻」にした。

;鳩山一郎の『朝日新聞』への寄稿 (1945-09-15) から明らかなように、GHQ の洗脳以前には、日本人は戦争について罪悪感を持っていなかった。むしろ、米国に責任があると考えていた。

→朝日新聞が、48時間の発行停止処分 by GHQ ;ありとあらゆるメディアが検閲の対象・新聞、ラジオ、映画、漫画、詩、俳句、短歌から児童唱歌や封書に至るまで

;公職追放令 (SCAPIN-550)、1946-01-04

;GHQ、日本側の憲法問題調査委員会の委員会案を完全に拒否し、独自の新憲法案を提示、1946-02-13

;鳩山一郎の自由党は、1946年4月の総選挙で勝利し、彼は首相になるはずだったが → 1946-05-03、GHQ は、鳩山に公職追放令を発動したため、鳩山は首相になれず、代わりに、吉田 茂が首相に就任

;GHQ 洗脳の4つの方策

#### ① 伝統的な歴史と修身の教育の禁止 教育者の追放令、1945-12-30 → 12万人以上が解雇・辞任

GHQ、「教育に関する四大指令」のうちの第4指令「修身、日本の歴史および地理の停止に関する件」を発令、1945-12-31 → これら3教科 (修身、日本史、日本地理) の授業中止

GHQ、「日本教育家の委員会」(委員長=南原繁東大総長) の設置を支持

→ 同年3月に訪日予定の第1次米国教育使節団の日本側の受け入れ機関、1946年1月  
教育基本法の制定、1947年3月・・・ハーグ陸戦条約違反の可能性

#### ② WGIP by GHQ/ CIE(民間情報教育局)、1945年9月～対象者=日本人だけでなく、米国人を含む世界のすべての人々

#### ③ 完全なる言論統制 by GHQ/ CCD (民間検閲支局)、1945年9月～

検閲の事実を、日本だけでなく世界に対して秘匿 (極めて陰湿)

#### ④ 東京裁判・・・戦勝国史観を植え付けるための一大スペクタクル

;洗脳作戦に限ってはGHQによる直接統治、unlike 一般的な間接統治

;アメリカによる完全なる欺瞞

一方では、GHQ が事実上強制した日本国憲法の発効 (1947年5月)、他方では、完全なる言論規制=明らかに日本国憲法の第21条に違反・・・検閲の事実を秘匿しなければならなかった最大の理由

;プロパガンダ冊子『太平洋戦争史』by GHQ/ CIE 企画課(課長=ブラッドフォード・スミス)、1946年4月  
これが、GHQ 歴史洗脳のバイブル → 新聞、NHK ラジオ、学校の歴史教科書、まるで、日本人の頭の中を絨毯爆撃したかのように徹底的に洗脳 → 殆どすべての日本人が洗脳され、自虐史観を持つに至る。

;そして、1952年にGHQが去った後も、日本人の教育者やジャーナリストなど、GHQ 洗脳の優等生たち

によって、GHQの洗脳が再生産されている。 ➡ 現在もなお継続中

; GHQは、近現代史のビッグ・ストーリーを180度ひっくり返すことに成功

「日本=善、米国=悪」 ➡ 「日本=悪、米国=善」

; 換言すれば、米国は、日本のみならず、米国人を含めた世界全体を欺いた。

➡ 世界のほとんど多くの人々は、まだ、真の近現代史を知らない。!!

; 象徴的に言えば、日本人の中で、小野田寛郎さんだけがGHQの洗脳を免れた。戦後29年間、フィリピンのジャングルにいて、1974年、あたかも「人間タイムカプセル」のように日本に戻って来た。その時、小野田さんの頭の中は、戦前・戦中の日本人そのもの。—小野田さんは、なぜ日本への帰還後、僅か半年でブラジルへ移住したのか? 戦前の頭の小野田さんは、戦後の日本に深く失望した。

—小野田さんの行動で、戦後、GHQによって日本人が如何に完全に洗脳されたかが分かる。

### 3 私自身、国際社会において東京裁判史観を根底から覆す主張シリーズの第3弾を昨年行った

・2018年8月16日、ジュネーブの国連人種差別撤廃委員会(CERD)におけるスピーチ; 日本の人種差別撤廃提案100周年

・2018年12月20日、イスラエル日本学会(IAJS) 国際シンポジウムにおける報告(於・テル・アヴィーフ)

・2019年9月28日、ミーゼズ研究所(Mises Institute) 主催のニューヨークの学会(Libertarian Scholars Conference, LSC)で、戦後GHQの徹底した洗脳に関して報告\*東京裁判史観を根底から覆すような主張; 英語で、国際学会や国際機関でのこの種のプレゼンテーションとなると、これまで皆無だった。

2018年8月、1人(山下)、於・ジュネーブ国連人種差別撤廃委員会(CERD)、2018年12月、1人(山下)、於・テル・アヴィーフ大学(第4回イスラエル日本学会)、2019年9月、2人(山下、Jason Morgan)、於・ニューヨークのリバタリアン・スカラーズ・コンファレンス2019

今後は、3~4人? を実現したい、於・ニューヨークのリバタリアン・スカラーズ・コンファレンス2020 ➡ 今年はコロナ禍で中止 ➡ 2021年9月、米国イェール大学で開催予定

### 4 対国連活動の全体像

・国連の仕組みは、複雑で、我々も、勉強の過程にある。国連人権理事会(UNHRC)定例会合・毎年、年3回; 2月~3月(ハイレベル・セグメントを含む4週間)、6月(3週間)、9月(3週間)

—政治家が登壇するハイレベル・セグメントで、2018年、2019年、2020年と3年連続して、韓国外相の康京和(カンギョンファ)が、反日スピーチをしている。

—この時期、日本は、国会の会期に当たっているため、外務大臣を派遣できない。 ➡毎年、外務大臣政務官が対応(2020年=尾身朝子 政務官のスピーチ) 参加には、国連ECOSOCのNGO協議資格(Consultative Status)が必要—新しい歴史教科書をつくる会は、2019年8月NGO特別協議資格を取得済み—国連は、2つの大きな枠組みを持っている。

① 安全保障理事会(UNSC, UN Security Council) ② 経済社会理事会(UN/ECOSOC, the Economic and Social Council) ・ ・ 人権理事会(UNHRC)は、この下部組織機構

・国連人権高等弁務官(UNHCHR)Ms. ミッシェル・バシエーレ(前チリ大統領、チリ社会党の政治家)

この後も内容豊富な講演が続き、紙面の都合で割愛しますが、聴衆は講師の国際舞台での活躍に納得しました。



## 第86回定例会

演題「ユダヤ難民救済、キスカ島撤退、北海道防衛に見る樋口季一郎の決断」

講師：明治学院大学名誉教授 樋口 隆一 氏

令和2年8月21日(金) 18:30～ 於：日本橋公会堂

「日本を護る会」は真夏の酷暑が続き未だコロナ禍の勢い衰えぬ中、充分注意を払いつつ世界戦略総合研究所と共同で標記演題の講演会を開催しました。都の指導の下受付では入室前に検温そして受け付けた参加者の名簿に測定体温を記録し不測の事態に備えるという異例の手順を踏むことになりました。心配した参加者も50名を数え講師は祖父にあたられる樋口季一郎元中将を彷彿させる恰幅で声量も豊かに聴衆を魅了し会は盛況裡に終了いたしました。



講師

樋口隆一氏 音楽学者、指揮者、明治学院大学名誉教授

講師略歴

慶應義塾大学大学院博士課程中退。DAAD 奨学生としてドイツ留学。チュービンゲン大学哲学博士。国際音楽学会元副会長。近年、樋口季一郎の孫として祖父の生涯を研究。著作、講演多数。本年4月に『陸軍中将 樋口季一郎の遺訓～ユダヤ難民と北海道を救った将軍』（勉誠出版）を出版。

### 講演内容

樋口季一郎元陸軍中将（1888－1970 以下樋口と略す）略歴

1888年8月20日淡路島生れ、中央幼年学校、陸軍士官学校を経て1919年陸軍大学校を卒業シベリア出兵時のウラジオストック特務機関員となる、陸軍大尉。1925－1928年 ポーランド公使館付武官（少佐）1928－1936年 山東省青島駐留、福山歩兵第41連隊長などを務めた後名古屋第3師団に帰還 1937年参謀本部付としてベルリン出張ドイツ各地視察。大島浩ドイツ大使館付武官の後任となるべく待機中なるも盧溝橋事件勃発により本国召還。1937年ハルビン特務機関長となる（少将）。以下はその後の主な事績

#### 1 ユダヤ人難民の救済（1938年頃）

駐リトアニア領事代理の杉原千畝氏による「命のビザ」はよく知られている反面樋口少将（当時）によるユダヤ人難民救済の話は知る人が少ない。1938年満洲北西部ソ連との国境オトポール駅に欧州からシベリア鉄道で逃れてきたユダヤ人難民が満洲入国を求めて押し寄せた。（注：杉原千畝領事代理がユダヤ人に通過ビザを発給した2年前）彼らは食料も尽き厳寒の中で立ち尽くし途方にくれていたのだ。樋口は満洲国外交部と交渉、ビザを発給することに成功し更に満鉄総裁松岡洋右の協力を得て特別列車を送り彼らを救出した。当時同盟関係にあったドイツからの抗議もあり樋口の更迭要求まであったが日本政府は無視した。救われたユダヤ人数は諸説あるが数千人～1万内外～2, 3万人と言われている。樋口の名はこれに対する感謝の印しに杉原領事代理とともに「ユダヤ民族基金」団体のゴールデンブックに記載されている（孫の隆一氏＝講師が確認）。日本政府が同盟国のドイツとは異なり最後までユダヤ迫害に加担しなかったことは記憶されるべきであろう。

#### 2 キスカ島撤退作戦（1943年7月）

有名なミッドウェー作戦と時を同じくして1942年6月に大本営は米軍の北方からの侵攻を防ぐためアリューシャン作戦を実施、アッツ島とキスカ島を占領した。しかしその後の米軍の反攻によりアッツ島は1943年5

月に2千余の兵士が玉砕、キスカ島にも危機が迫っていた。大本営はキスカ撤退を拒否、即ち見殺しにする積りであったが、当時北方軍司令官の樋口は救出を主張、大本営の承認を得た。救出艦乗艦に当たり兵士は小銃の投棄を厳命され5千名余が僅か50分で乗艦を終え成功の一因となった。当時の兵士にとって小銃は天皇陛下から賜った命でありこれを捨てる事は心理的に極めて困難だった。作戦は海軍の非常な努力により成功を収めたが米軍はパーフェクトゲームと称賛した。

米軍はこの撤退に全く気付かず8月から二週間に及ぶ砲爆撃の後に大軍を以て上陸しもぬけの空であることに気が付いたのである。(注：本作戦は同年2月のガダルカナル島撤退作戦と並ぶ2大成功例と言われる)

### 3 終戦後のソ連軍千島侵攻に対する防衛戦 (1945年8月)

8月9日ソ連は対日宣戦布告、満洲と樺太に侵攻を開始した。南樺太では第88師団が激し抗戦、半田陣地が玉砕した。8月15日正午終戦の玉音放送があり大本営は戦闘停止を命じたが18日16時までの自衛行動は許した。この間米国のB-29爆撃機がソ連に対する示威行動として千歳に着陸するという知られざる事実があった。18日未明ソ連軍が突如占守島(千島列島最北端の島)に無警告上陸、当時北方軍司令官の樋口はこれに反撃を命じ戦車第11連隊(長 池田大佐)歩兵2大隊などの活躍によりこれを追い落とすかと思われたが21日に至り停戦となった。ソ連は米国トルーマン大統領に満洲、南樺太、千島、北海道北部(留萌・釧路線の北)の領有を要求したが日本軍の敢闘により侵攻スケジュールが大幅に遅れ北海道上陸はならず北海道北部領有を断念した。日本はドイツのような分断国家となる事を免れた。



### 4 樋口のその後

1945年9月北部軍管区司令官の任務解除、北部復員監に就任、翌年3月同職解任、以後北海道、宮崎、神奈川、大阪など転居を繰り返し1970年東京に移り老衰の為死去、享年82であった。晩年はアッツ島を描いた絵の前で戦死した部下の冥福を祈る毎日であったという。



(当日の会場風景)

## 第87回定例会

### 演題「戦後から脱却できない日本の領域警備」

講師：公益社団法人東京湾海難防止協会理事長 向田 昌幸氏

令和2年8月5日(金) 18:30～ 於：としま区民センター

当会は講演会の講師として海上保安庁で下記の如く要職を歴任され現（公社）東京湾海難防止協会理事長を務められる向田氏をお招きし標記演題につきご講演をお願いいたしました。コロナ禍への懸念も止まぬ中多数の方の参加を頂きました。会場の都合でご講演は6時40分から始まりましたが講師の熱心なそして内容豊富・有益な講演で当初予定の1時間半をはるかに超過、会場使用制限時刻が迫り半ば無理やりに質疑応答もなく終了するという初めての結果になってしまいました。向田さん本当に有難うございました。以下内容をご報告致しますがご講演内容は紙幅の関係で本当にごく一部になってしまったことをご理解ねがいます。（その後メールでやり取りされた質疑応答の一部も含めております）



#### 向田 昌幸（むかいだ・まさゆき）氏 略歴

1952（昭和27）年8月、広島生まれ。1975（昭和50）年3月、海上保安大学校卒。現在、（公社）東京湾海難防止協会理事長。旧運輸省船員局（部）、在蘭日本国大使館、内閣情報調査室に出向。根室海上保安部長、第七管区海上保安本部警備救難部長、海上保安庁警備救難部刑事課長、第三管区海上保安本部次長、第八管区海上保安本部長、海上保安庁警備救難部長、警備救難監を歴任して退官。2012年5月～2018年6月まで（公社）日本水難救済会理事長、2019年7月から現職。その他：（公財）日本ライフセービング協会評議員、内閣府準天頂衛星システム事業推進委員会分科会委員

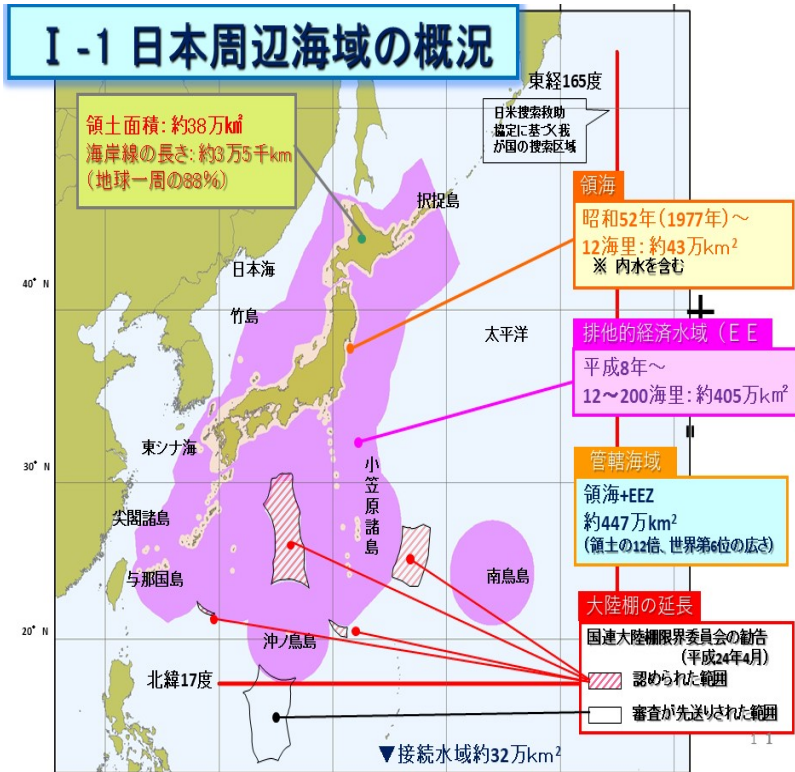
・ サンフランシスコ講和条約の発効によって主権を回復したものの経済的復興・発展を最優先に掲げる「吉田ドクトリン」の下、わが国は米国主導のGHQによって占領管理されていた当時のままの米軍に依存した国防体制の継続を選択した。さらに自衛隊創設後もわが国の歴代政権は基本的には米国に依存し、主体性の欠如した国防政策を踏襲してきており、結局、今もわが国は“戦後”から脱却できないままである。

・ 歴代政権が踏襲して来た憲法第9条の解釈とそれに基づく専守防衛及び武力行使三原則に代表される国防政策はまさに“戦後”のままの日本を象徴している。力を背景に尖閣周辺のわが国領海内への侵入を常態化させている中国公船に対する現在の海上保安庁の対応をはじめ、外国政府の指揮下にある軍公船その他の武装勢力又はそれと推定される国籍不明の武装勢力によってわが国の主権等が侵害され又は国の平和や国民の安全が脅かされるような侵略的活動に対するこれまでのわが国の対応を振り返って見てほしい。いずれも警察権による対処に終始してきたところである。その結果、主権侵害その他の力を背景とした侵略的行為を繰り返す外国勢力に第一線で対峙する現場の海上保安官をはじめ、海上警備行動に依って出動した海上自衛官や領空侵犯機に対応する航空自衛官は相手に応じた最適の対処手段に手枷足枷を嵌められた状態で命がけのギリギリの対応を迫られることとなっている。

・ そこで、国籍や身分を明らかにしないような得体の知れない武装勢力がわが国の主権等を侵害し又は国の平和や国民の安全を脅かす場合において、警察権によって対処するときは海上保安庁法第20条第2項の規定や海賊対処の際の武器使用の例に倣い、危害射撃要件の緩和を検討すべきである。そうでなければ、海上警備行動や治安出動によって対処することになる自衛隊も折角の立派な武器を有効に活用して安全かつ的確に対処することができそうもない。また、憲法解釈や専守防衛等の国防政策を今一度見直し、外国によるわが国の主権侵害や国の平和と国民の安全を脅かす行為に対してもう少し柔軟に自衛権を行使することができるようにすべきだ。これにより、まさに日本の平和主義に裏付けられた民主主義と日本国民による真のシビリアンコントロールが問われる

ことになるだろう。

・私は直ちに自衛権を行使すべきだとか、国の威信をかけて戦争も辞さず等と言いたい訳ではない。政府や国民が国際紛争や戦争を回避するためということの大義名分に、手詰まり状態にある現場の対処のみに終始している政治・外交上の無為無策を黙認看過していたのでは、問題の解決はおろか事態の打開又は改善に繋がらないばかりか、時間が経過すればするほど国益を損なうことになりかねないし、現場の海上保安官や自衛官を危険にさらすことにもなりかねないと警鐘を鳴らし続けている。



(図は海上保安レポートより引用)

左図は日本の領海（領海基線から12海里）と排他的経済水域（EEZ＝領海基線から200海里）を示す。領海とEEZを合わせた面積は世界6位の広さ。その意味で「特定離島」に指定された沖の鳥島と南鳥島の存在意義は大きい。但し実効支配していない北方領土と竹島周辺の領海・EEZも計算上入っている。（筆者注釈）

・2010年、当時の民主党政権が中国の恫喝に屈する形で中国人船長を超法規的措置により釈放したことにより日本政府は自らが中国側の尖閣諸島に対する領有権主張を受け入れたことを国内外に示す結果を招いてしまった。このことは、日本の尖閣諸島とその周辺の日本の領海における有効支配を自ら返上したようなもので、尖閣諸島が日中間の帰属・領有権を巡る係争地（領土問題）だと認めたに等しい。後の尖閣諸島の国有化の時ではなく、まさにこの中国人船長の釈放こそ、中国に中国公船が公然と領海侵入や日本漁船に対する法執行活動を行う大義名分を与える契機になったのであり、屈辱的な外交というより、国益を損なう致命的な大失態だと見ている。

・できるだけ速やかに現行の国防政策を見直し、現場における対処の選択肢として、警察権に基づく対処のほかに、自衛権に基づく対処も加えるべきだ。また、それ以上に喫緊の重要課題はかつての「吉田ドクトリン」やそれを踏襲して目先の経済的利益だけを追求優先する現下の経済至上主義から脱却すべきということ。幅広い視点と長い目で国益を考慮した政治・外交・国防・経済政策へと転換を図っていくことがわが国の将来にとって大切なことではないかと考えている。



(会場風景：密に見えますが充分ソーシャルディスタンスを保っています)

## 第12回 定時総会

日時：令和2年9月5日 14時～

場所：としま区民センター

「日本を護る会」の第12回定時総会は昨年新しくオープンをした豊島区の施設「としま区民センター」の会議室にて9月5日（土）に開催されました。

- 1 開始時刻：9月5日 午後2時
- 2 萱場浩之副理事長の司会のもと、会規約に則り大橋武郎理事長が議長となり総会の開始の宣言があり、各議案についての審議に入った。
- 3 議事の審議及び採決 ※（ ）内は説明者

第一号議案 令和元年度事業報告書の件 (理事 企画委員長 望月靖夫)

第二号議案 令和元年度収支決算報告書の件 (顧問 大橋勇郎)

第三号議案 令和2年度事業計画（案）の件 (理事 企画委員長 望月靖夫)

第四号議案 令和2年度収支予算（案）の件 (顧問 大橋勇郎)

第五号議案 定款変更の件 (顧問 大橋勇郎)

総会または理事会が一定の要件を満たせば会員または理事の出席がなくともそれらを開催したことにすることができるという条項を追加。いずれも審議事項が簡単なものであれば合理的に決議ができるようにする目的である。

第六号議案 理事及び役員の任期満了に伴う改選の件 (理事長 大橋武郎)

すべての理事、監事が再任。

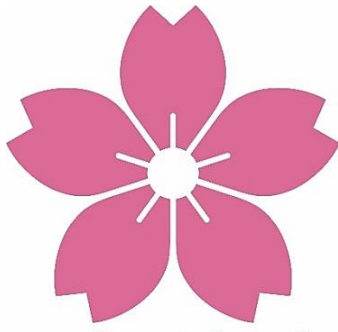
上記すべての議案が承認された。

- 4 報告事項 (顧問 大橋勇郎)

\* 年会費 令和3年1月1日より年会費は現行の2,000円から3,000円になること、また年度の途中で入会する人のためにその時期によって支払われる金額を定めた。

\* 懸案であった「日本を護る会」の新しいロゴが紹介された。(次項参照)





# 日本と護る会

5 以上によりすべての審議事項は無事終了し議長から閉会が宣言された。

6 終了時刻：9月5日 午後2時40分

**第12回 定時総会講演**

**演題：「陸上自衛隊の概要と現在の取り組み」**  
**講師：陸上幕僚監部広報室長 横田 紀子1等陸佐**  
**日時：令和2年9月5日 15時～**



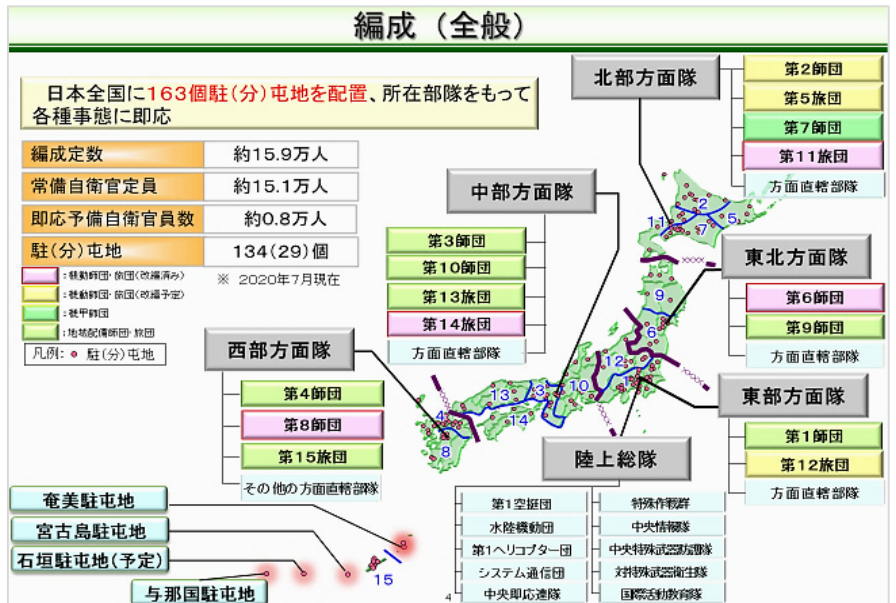
講師略歴 昭和 49年 佐賀県出身

平成 9年 3月 防衛大学校 卒業 第41期  
 28年 3月 幹部学校付 (目黒)  
 29年 3月 富士学校特科 戦術班長 (富士)  
 29年 8月 陸上幕僚監部 人事教育計画課 企画班長

令和 元年 8月 第9特科連隊長 (岩手)  
 2年 3月 東北方面特科連隊長 (岩手)  
 2年 8月 現職  
 教育 陸上幹部学校 指揮幕僚課程、  
 早稲田大学大学院 修士課程 (公共経営学)

陸上幕僚監部広報室長の横田 紀子1佐が「陸上自衛隊の概要と現在の取り組み」と題するお話を大変わかりやすく説明して下さいました。

講師の横田1佐は33枚のチャートを使って誠に要領よく明確な説明をして下さいましたが、紙幅の制限によりこの中の7枚を抜粋しました。また、講演後の約35分間に亘る質疑と応答も大変活発に行われ、誠に有意義な講演会でした。



# 陸上防衛力の特性及び意義

特 性			
区分	①常統的な領域支配	②地形の戦力化	③関係機関との連携
航空戦力	一時的な領域（空）支配 	地形の戦力化は困難 	関係機関との連携は限定的 
海上戦力	一時的な領域（海）支配 	地形の戦力化は困難 	関係機関との連携は限定的 
陸上戦力	常統的に領域（土）を支配 （海空作戦の基盤も領土に存在） 	地形の戦力化が可能 （地形を活用した強靱な作戦が可能） 	国民に近く、自治体等、関係機関との連携が不可欠 
意 義			
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 我が国の強固な防衛意思を表明するもの</li> <li>○ 我が国の国民、領域（領土）及び主権を直接防衛する防衛力</li> <li>○ 安全保障環境の改善への取り組み及び大規模災害等への対応の主体</li> </ul>			



# 装 備

戦闘装備	対人火力		20式小銃
	対機甲火力		19式装輪自走155mmリョウ弾砲
	対空火力		16式機動対空砲
	対艦艇火力		03式中距離地对空誘導弾
戦闘支援装備	施設		12式地对艦誘導弾
	特殊武器防護		資材運搬車
	航空支援		除染セット
	C4ISR		多用途ヘリ UH-2
後方支援装備	補給		ネットワーク電子戦システム
	整備・回収		野外通信システム
	輸送		野外炊具1号
	衛生		浄水セット
総 括	あらゆる任務に柔軟に対応するため、地形等に応じた多種多様な装備品をバランスよく保持		

## 我が国周辺の状況（2/4）（中国②）

**中国軍の活動**

統合による上陸演習等の実戦的訓練の実施  
 尖閣諸島周辺海域での艦艇・公船・漁船の恒常的な活動  
 艦艇の恒常的な活動  
 公船による領海侵入  
 漁船の活動活性化  
 台湾に対する軍事的脅威の増大  
 台湾周回飛行  
 台湾周回航行  
 西太平洋での活動  
 空母「遼寧」の初進出  
 反艦対艦機（備定）の飛行

資料源：防衛計画の大綱、防衛白書、防衛省HP、各種公開報道  
 日本海・西太平洋への進出が急増  
 戦時態の日本海への進出  
 埋撃機伊予島沖への進出

【凡例】  
 航空機  
 空母

**総 括**

- 中国軍は、我が国周辺地域における活動を質・量ともに急速に拡大・活発化
- 尖閣諸島周辺のほか、日本海及び西太平洋における活動の常態化を企図しているとみられ、海空戦力による活動を一方的にエスカレート
- 台湾を核心的利益と位置付け、統一を果たすためには武力行使もいとわない姿勢

## 島嶼部を含む我が国に対する攻撃への対応（南西地域への部隊配置の推進）

【奄美大島】550名規模  
 警備隊 中SAM部隊 SSM部隊  
 H31.3開設

【与那国島】160名規模  
 沿岸監視隊  
 H28.3開設

【宮古島】700名規模  
 警備隊 中SAM部隊 SSM部隊  
 H31.3開設 R2.3開設

【石垣島】500~600名規模  
 警備隊 中SAM部隊 SSM部隊  
 可能な限り速やかに配置

第15旅団  
 奄美大島  
 宮古島  
 与那国島 石垣島

**総 括** 戦力の空白となっていた与那国島、奄美大島、宮古島及び石垣島に部隊を新編し、南西地域における抑止・対処態勢を確立

## 国内災害の状況

### 昨今の災害発生状況

#### 地震に伴う災害

- 熊本地震(28.4) 最大震度 7
- 大阪府北部地震(30.6) 最大震度 6弱
- 北海道胆振東部地震(30.9) 最大震度 7
- 北海道胆振中東部地震(31.2) 最大震度 6弱
- 山形県沖地震(01.6) 最大震度 6強



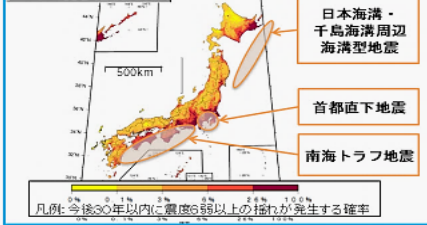
#### 豪雨等に伴う激甚災害

- 九州北部豪雨(29.7)
- 平成30年7月豪雨(30.7)
- 台風21号及び24号(30.10)
- 令和元年台風15号及び19号(01.9)
- 令和2年7月豪雨(02.7)

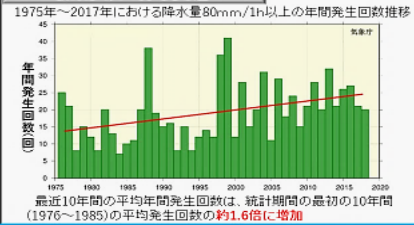


### 災害発生の蓋然性

#### 大規模震災



#### 豪雨等に伴う災害



### 総括

- 大規模な地震が発生すると予想されている南海トラフ、首都直下、海溝型以外の地域においても、震度6弱以上の大規模な地震が各地で発生
- 近年では、異常気象に伴う局地的豪雨や暴風雨による被害が頻発・常態化



## 採用に係る各種制度の改善

### 身体検査基準の緩和 (31年4月～)

項目	緩和された基準(一例)
身長	男子:155cm⇒150cm、女子:150cm⇒140cm
体重	概ねBMI 3.0まで合格(H30.6～)
胸囲	各身長に応じ規定⇒廃止
肺活量	男子3,000cc、女子2,400cc⇒廃止
色覚	色彩識別可能者は合格(R1.9～)

### 採用上限年齢の引上げ (30年10月～)



### 女性採用数の拡大 (逐次拡大中)



### 士の処遇改善 (令和2年度～)

【自衛官候補生の給与の見直し】			
区分	学歴	現行	見直し後
自衛官候補生手当	大卒	133,500円	142,100円 (+8,600円)
	高卒	176,000円	221,000円 (+45,000円)
【2士の初任給(一般曹候補生)の見直し】			
区分	学歴	現行	見直し後
自衛官(2士)	大卒	181,100円	198,100円 (+17,000円)※
	高卒	166,900円	179,200円 (+12,300円)

※ 段階的に引き上げ予定

厳しい採用環境の中、各種制度の改善を推進



質疑 応答

## 事務局からのお知らせ

- \* 昨年度の後半はコロナ禍の影響にて活動ができませんでしたが、7月に始まった本年度は活発に定例会が施行されつつあり勢いを増しています。皆様のご理解とご支援に事務局からも深く感謝を申し上げます。
- \* 昨年度の重要な目標であった認定取得のための申請は遺憾ながら詳細な監査の中で指摘事項があり再度挑戦を余儀なくされました。昨年度の実績を含め、あらためて本年10月に申請を目指すこととなりました。
- \* 「日本を護る会」は皆様の会費でどうにか活動を続けることができているというのが現状です。会の発展のためには会員の増加を図ること、また可能な限り寄付を募ることによってのみ可能になると考えます。その為に皆様の一層のご協力、アイデアの提供を頂きたくよろしくお願い申し上げます。
- \* 現在、会員相互の交流の更なる向上を目指すべくホームページの充実を図っています。会員からの体験レポートなど、相互の共有を増進するために皆様から寄稿していただくことを期待しています。ただし採用の有無は理事会にお任せを頂きたくご理解ください。奮ってご参加いただきますようお願いいたします。

### 今後の予定

#### (1) 第88回定例会

日時： 10月7日(水) 19時

場所：としま区民センター

講師： 恵 隆之介氏

演題： 「旧敵英海軍士官が賞賛する武士道」

#### (2) 第37回研修会

11月に予定の横浜海上保安庁訓練施設(横浜)の見学は新型コロナのため受付中止につき、代替え企画検討中

原則、メールにてお申し込み下さい。

### 新年度年会費お振り込みのお願い

1. 機関誌をEメールで受け取る会員 2,000円
2. 機関誌を郵送で受け取る会員 4,000円 (2,000円+送付料2,000円)

当会の健全運営に資するため御寄付(一口1,000円)を戴けますことは、いつでも大歓迎です。ご意思のある方は事務局までEメールにて承ります。

### 新会員のお誘い

当会では、お友達など会の趣旨に賛同していただける会員を広く募集致しております。

#### **年会費お振り込み先**

各口座名義 特定非営利活動法人 日本を護る会

#### ① ゆうちょ銀行

店番号 038 普通預金 記号10380 番号92589171

#### ② 三井住友銀行

店番号 516 普通預金 口座番号 74410697

日本を護る会・レポート 第39号 令和2年9月発行

編集発行: 特定非営利活動法人 日本を護る会

ホームページ: <http://awake-japan.sakura.ne.jp>

E-mail : [awake-japan@googlegroups.com](mailto:awake-japan@googlegroups.com)